

図書館だより

第48号

令和4年8月 加須市立図書館 編集・発行

特集①：戦争を考える

ロシアのウクライナ侵攻は世界に衝撃を与えました。世界を見渡すと、ウクライナ以外でも紛争が頻発し、戦争のない世界の実現は非常に困難であることが感じられます。今回の特集は、戦争について多面的に考えるための図書を紹介します。

『中学生から知りたいウクライナのこと』 小山 ^{さとし} 哲・藤原 辰史／著 ミシマ社



侵攻前に、どれだけウクライナについて知っていたでしょうか？「黒土地帯」「コサック」などの言葉を聞いた程度という方が多いでしょう。本書では、二人の歴史学者が、民族的にも宗教的にも複雑な歩みをたどり、大国に翻弄されたウクライナの歴史をわかりやすく解説しています。現状を理解するために、まず「知る」ことの大切さを教えてくれます。

『戦場の秘密図書館』 マイク・トムソン／著 小国 綾子／編訳 文溪堂

戦場に図書館？と思う方もいるでしょう。対極にあるような二者ですが、内戦下のシリアで実際に存在した図書館のお話です。

政府軍に街ごと包囲され、医薬品はおろか食料も不足する中で、有志が本を持ち寄り、地下に図書館を開きました。「司書長」の14歳の少年をはじめ、多くの人が本に心の安らぎと一時の夢を求め集います。



『少女たちの戦争』 中央公論新社／編 中央公論新社



瀬戸内寂聴や田辺聖子、向田邦子などの名だたる女性作家が、多感な時期に経験した太平洋戦争を回想したエッセイ集です。

ある人はジャワ島日本人学校のこと、そしてある人は家業の写真館での楽しい毎日の思い出について、とそれぞれの「戦争」が語られます。のちに作家となる少女たちの観察眼が光る1冊です。

『図説戦争と軍服の歴史』 辻元 よしふみ／著 辻元 玲子／イラスト 河出書房新社

世界の戦争史と軍服の歴史を読み解いた本です。軍服の定義や、靴・肩章などのアイテム、時代や世界情勢の変化による色や形の変遷などについて豊富なイラストとともに紹介しています。

軍服も服装である以上、ファッションであり流行があるということがわかります。



『^{ふりよ}俘虜記』 大岡 昇平／著 新潮文庫刊

太平洋戦争での従軍経験と、捕虜になったのちの收容所暮らしを基にした連作小説です。

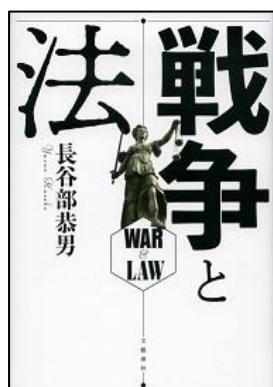
米軍に捕まる前から捕虜生活が長くなる中での自己の内面の変化や、同僚たちの怠惰な暮らしを冷静に分析し克明に描き出します。收容所の人間模様を通して戦後日本とアメリカを批評した名作です。



『命を危険にさらして』 マリーヌ・ジャックマン、アンヌ・バリエール、パトリシア・アレモニエール、リズロン・ブドゥル、アンヌ＝クレール・クードレイ／著 遠藤 ゆかり／訳 創元社

1980年代から現在まで、世界中の紛争地帯取材した、5人の女性ジャーナリストのエッセイ集です。

エッセイからは、命がけで情報を伝える仕事に使命感を感じる一方、報道してもこの残酷な現状は変わらないのでは？と悩む、等身大の女性の姿が浮かび上がります。



『戦争と法』 長谷部 恭男／著 文藝春秋

憲法学者である著者は、国家という約束事の核心にあるのが憲法であり、憲法原理が対立する国家間においては摩擦が起き、それが高じて戦争に発展することがあると指摘します。

戦争と憲法の密接な関係について、ナポレオンや朝鮮戦争など世界史的に転換点となった戦争を取り上げ、丁寧に解説しています。

『サイバーアンダーグラウンド』 吉野 次郎／著 日経 BP



近年、報道などで「サイバー攻撃」という言葉を聞くことが多くなりました。国家間でもサイバー空間における「見えない戦争」が激烈になっているそうです。イギリスの元諜報員の「日本も気づかぬうちにサイバー戦に巻き込まれている」という言葉に戦慄が走ります。

☆こちらどうぞ☆

『株式会社の世界史』 平川 克美／著 東洋経済新報社

『南北戦争』 小川 寛大／著 中央公論新社

『百年戦争』 佐藤 猛／著 中央公論新社

『「決戦」の世界史 普及版』 ジェフリー・リーガン／著 森本 哲郎／監修 原書房

『かくされてきた戦争孤児』 金田 茉莉／著 講談社

『あの日を刻むマイク』 武井 照子／著 集英社

『KGBの男』 ベン・マッキンタイアー／著 小林 朋則／訳 中央公論新社

特集②：図書館の利用に障害がある方へのサービス

図書館では、本や雑誌をそのまま読むのが難しい方のために、点字図書や大活字本などの資料や拡大読書器等をご用意しています。また、会話によるコミュニケーションが難しい方へのツールもカウンターに設置しています。

点字つき図書・雑誌

文章を点字で表しています。活字も添えてある本もあります。絵や写真などはその面に細工を施し、さわると質感が分かるようにしている本もあります。

LLブック

やさしい言葉を使い、写真やイラストなどを中心にした「わかりやすい本」のことです。年齢に関係なく使いやすい本です。

大きな活字の本

活字の大きさが通常の1.2～2倍程度の大きさで印字された本。白黒反転になった本もあり、視力が弱い方や細かい字が読みづらい方におすすめです。

コミュニケーションボード

ボードにある文字やイラストを指さして、要望や気持ちを伝えることができます。白黒反転版・英語版も用意しています。

拡大読書器

手元の資料を拡大してモニターに映します。読む箇所を白黒反転やカラーに切り替えることができます。



図書館カレンダー



8月

日	月	火	水	木	金	土
	1 ×	2 ×	3	4	5	6
7	8 ▲	9 △	10	11	12	13
14	15 ▲	16 △	17	18	19	20
21	22 ▲	23 △	24	25	26	27
28	29 ▲	30 △	31 ×			

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5 ▲	6 △	7	8	9	10
11	12 ▲	13 △	14	15	16	17
18	19	20 ×	21	22	23	24
25	26 ▲	27 △	28	29	30 ×	

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 ▲	4 △	5	6	7	8
9	10	11 ×	12	13	14	15
16	17 ▲	18 △	19	20	21	22
23	24 ▲	25 △	26	27	28	29
30	31 ×					

×…全館休館日 △…加須図書館休館日 ▲…騎西・北川辺・おおとね図書館休館日

おはなし会を再開します

8月より、図書館での子ども向けおはなし会を順次再開します。以下のように感染対策を講じながら実施いたします。（※8月は加須・北川辺のみ実施予定）

- ・参加できるのは各おはなし会4組（予約不要・当日先着順）
- ・マスク着用（小さいお子さんは除く）
- ・手指消毒、検温の実施
- ・空気清浄機の使用
- ・図書、道具類の消毒 等

各図書館の詳細な再開日程等は図書館ウェブサイトや各図書館に掲示するポスター・チラシ等をご覧ください。みなさまのご参加をお待ちしております。
※新型コロナウイルスの感染状況により、急遽中止となる場合があります。



除籍した雑誌を無料で配布しています

図書館での保存期間が終了した雑誌を各図書館で配布しています。不定期に補充し、配布日・配布する内容についての問い合わせや予約などは受付していませんのでご了承ください。

【お問い合わせ】

- 加須図書館 中央2-4-17 電話：0480-61-8200
- 騎西図書館 根古屋633-10 電話：0480-73-3178
- 北川辺図書館 麦倉1473-1 電話：0280-62-4400
- 童謡のふる里おおとね図書館 琴寄597-1 電話：0480-78-2211

☆図書館WebサイトURL：<https://www.library.kazo.saitama.jp/>